成功のカギは「やめない限り失敗ではない」

佐藤 正之
SATO Masayuki
株式会社野村総合研究所
コンサルティング事業開発部
事業推進グループ グループマネージャー
（東京都千代田区）

新型コロナの大流行は、農林水産業にも大きな影響を及ぼしました。これからの農業の在り方を示すようなビジネスモデルを展開していた農業法人が倒産する事態も発生しました。この農業法人は、外食産業のニーズに応じた野菜生産と一次加工をおこなっていましたが、コロナ禍において外食産業への依存があだとなりました。「余った野菜を買い取るよ」といった支援のお話もありましたが、事業の継続を断念しました。同様のことは、東日本大震災の際にも見られました。当時としては珍しい持続可能な漁業で獲られた天然水産物の証しであるMSC認証を取得し、水産物加工品の輸出に向けて大規模な加工場を建設した水産業者が、本格的に輸出を開始するタイミングで発災し、原発事故によって輸出ができなくなりました。この水産業者のところにも資金援助のお話などがありましたが、結局、会社をたたむことになりました。

このような劇的な事業環境の変化は頻繁に起こるものではありませんが、事業環境の変化に備えたBCPの策定や余裕資金の確保といった対策も必要です。しかしながら、事業を成功に導くうえで、もっと大切なことがあると感じています。

私は、野村アグリプランニング&アドバイザリー株式会社（現 野村證券株式会社）が設立された2010年からアグリ分野の調査・コンサルティングに携わってきました。ちょうど六次産業化・地産地消法が施行されたころで、6次産業化に取り組む多くの農林漁業者からお話を伺う機会がありました。そのなかで一番印象に残っているのは、優良事例として取り上げられる人々は「失敗と感じていることがない」ということでした。

「これまでの取り組みで失敗したことと、それをどのように乗り越えたかを教えてください」と質問すると、しばらく考えた後「失敗したことはない」と答えるのです。こういった回答は1人や2人ではありません。つまり、事業をやめない限り失敗した取り組みではなく、必ず事業の成長に役立っているのでしょう。「事業を成功に導こう」という強い思いはまわりの人々にも伝わり、誰かが支援の手を差し伸べてくれます。これこそが、事業を成功に導くカギなのではないでしょうか。

ⓒいだよう

さとう まさゆき
1992年野村総合研究所入社。2010年から10年半にわたり野村アグリプランニング&アドバイザリー株式会社に出向しアグリ分野の調査・コンサルティングに従事。

農業経営アドバイザーは農業経営者のニーズに対応し、経営への総合的で的確なアドバイスを実践する専門家です。2005年、農業経営の発展に寄与することを目的に日本公庫が資格制度を創設しました。本コーナーは、上級資格である上級農業経営アドバイザーが執筆しています。